

「病院の定礎」

2007年から8年間にわたり奉職させて頂いた堺市立総合医療センター及び堺市立病院機構を退職いたします。地域医療再生基金の獲得、市長の交代、地方独立行政法人化、経営改善、人材の確保、移転新病院と三次救急救命センター設立、こども急病診療センターや救急ワークステーションの併設など、思い出深いものになりました。この間、堺市長はじめ関連課の人々や堺市医師会の先生方には多々お世話になり、誠にありがとうございました。

新築移転した堺市立総合医療センターは、奈良天平の聖武天皇、光明皇后の時代に東大寺建立や治水・溜池、病院のはしりになる布施屋など、多くの今で云う公共事業に貢献した行基生誕の地、堺市西区家原寺町にあります。新病院は彼の建立第一号寺といわれる家原寺のすぐ近くです。行基菩薩もきっと新病院の設立を喜んでくれているであろうと勝手に思いこむようにしています。

さて、この新病院の入口玄関右側に定礎石があり、この中には定礎式を行った平成27年5月25日の新聞や「定礎の辞」等の碑文が入っております。「定礎」の文字を私に書くように仰せつかりました。光栄なことと思いお請けいたしました。生来悪筆の私が書くのですから、何回か練習をいたしました。その時、ふっと気がつきました。「定」という文字にも「礎」という文字にも、一番下に人の字が寝ています。これは武田鉄矢の怖い漢字かとすぐ気になりました。人柱であります。一番下に人が寝かされている。犠牲者か、土地の神に安寧を願って人を生き埋めたのか。城の人柱伝説は世界中にあるらしいですが、真偽は不明のようです。漢字由来の中国でも紀元前100年以上前の秦の時代に既に人型人形を埋めていたし、生きた人間を埋めていたのかは疑問があります。それで一寸考えてみると「走」「足」の文字にも同じく「人」の字が下にあることに気づきます。そこで厚切りジェイソン並みに私なりに考えてみると下の「人」は2本の足（合計で4本）であり、「足」の字はまさに頭・胴・手と揃っています。人が足で走っている姿に見えます。「定礎」の下の人の字も土台の

2本足であろうと感じました。しかし、強固で不屈であるべき「定礎」が足の
ように動くもので出来ていてよいのか、疑問が残ります。昔の人は既に社会の
土台は「人」にあることを洞察していたのか。動く足に土台があることを考え
ていたのか。不動では時代に対応できないことを知っていたか、等々の疑問で
す。そう云えば、病院の運営を支えているのはすべて人（職員）にあります。
さらに、新病院の土台は動くようになっています。免震構造です。動くゴム
の上に立っています。「定礎」の下の「人」の意味は人柱ではなく、可動で対応能
力を持つ足が重要であることを云っていると自分なりに考えました。厚切りな
らぬ、薄切りジェイソン並みの考えですが、正しい意味がお分かりの方は是非
御教授賜りたいとお願い申し上げながら堺での8年間に御礼を申し上げます。

平成28年3月

北村 惣一郎